

オーバーホールの手順

【シール交換の前に】

ブレーキ構成部品の洗浄は、製品のシール・ゴム類に深刻なダメージを与えてしまうため、いかなる種類のガソリン、鉱物油系化学クリーナー、汚染された布なども絶対に使用しないで下さい。

揮発性メチルなど、アルコールを主剤とした液体洗剤を使用して下さい。

また、暖かい石鹸水は非鉄系構成部品の洗浄に適しています。

キャリパーの洗浄及び乾燥させる作業をする際は、全ての油路が完全に密閉されていることを確認して下さい。

特に、キャリパー内部にゴミやカスなどの小片が絶対に入らないように注意して下さい。

【シール交換作業】

写真は、ダストブーツタイプの CP7040 キャリパーです。CP5200/CP5555 等のダストシールタイプは、キャリパー本体のピストンシール(オイルシール)と並んでダストシールが装備されていますので、作業はピストンシールの交換と同じ要領で行って下さい。

1) 写真 1 で示すような、キャリパーの幅を十分に満たすブロックを用意して下さい。



写真 1

2) フィードポートのフィッティング(写真 2)に、写真 3 のようにエアガンでキャリパーにエアを送り込んで下さい。



写真 2

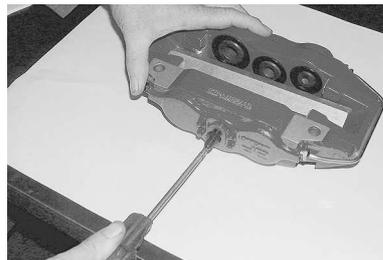


写真 3

3) エアが正常に送られると、写真 4 のように、ピストンが飛び出します。

もし、エアを数度送ってもピストンが出ない場合は、無理に作業を進めずに、検査をご依頼下さい。

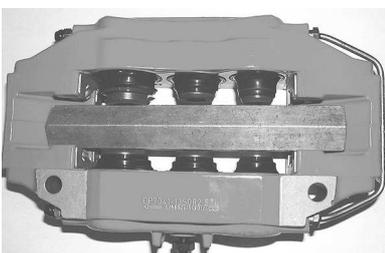


写真 4

4) ピストンが全て飛び出したら、ブロックを外して下さい。(この時点で、ダストブーツがキャリパー本体から外れる場合があります)

ブロックを外したら、ピストンを手で引き抜いて下さい。この際に、ダストブーツが捲れてピストンが掴めない場合は、写真5のようにドライバー等でブーツを押し込んで下さい。(ダストブーツは、ピストンと一緒にキャリパー本体から外れる場合もあります)



写真 5

5) 写真6は、キャリパー本体にダストブーツが残った状態です。

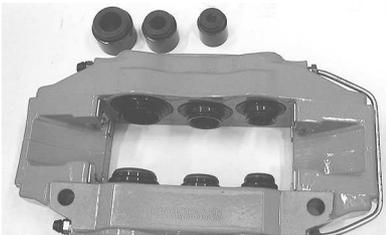


写真 6

6) 残ったダストブーツは、写真7のような先の丸まったドライバーでキャリパー本体から外して下さい。

この作業は、あまり力を必要としないので、過度な力を入れないように注意して下さい。

また、キャリパー本体に傷を付けないように、十分注意して下さい。

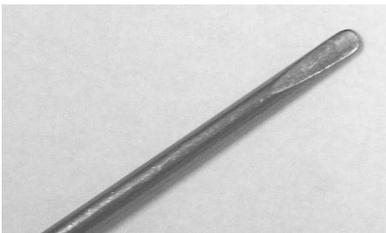


写真 7

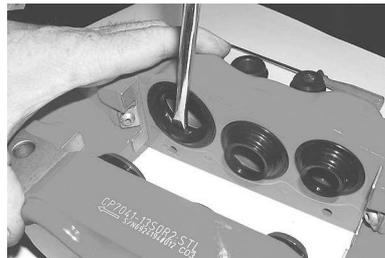


写真 8

7) ダストブーツを外すと、写真9のようにピストンシール(オイルシール)が見えます。



写真 9

- 8) ダストブーツを外した際と同じ要領で、写真 10 のようにキャリパー本体に傷を付けないように、ピストンシールを外して下さい。

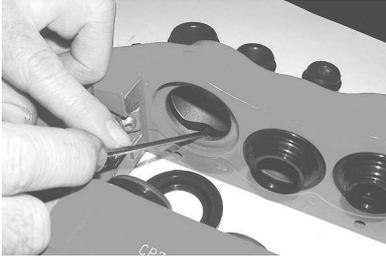


写真 10

- 9) 全てのシールが外れたら、新しいシールを組む前に、キャリパー本体とピストンの傷の有無をチェックして下さい。この際に、キャリパー本体のピストン溝、ピストンシール溝に傷がある製品は、シールを交換しても、フルード漏れが発生する可能性がありますので、再使用はしないで下さい。また、疑問を持った製品は、検査をご依頼下さい。

【組付け作業】

※キャリパーシールは、適正サイズの AP RACING 製シールキットを使用して下さい。

- 10) 再組付けの前に、全ての部品が清潔で湿気が無い乾燥状態であることを確認して下さい。
新しいピストンシールは、作業に先立って 30 分間ブレーキフルードに浸けておいて下さい。
(ダストブーツ/ダストシールは浸ける必要はありません)
ブレーキフルードは、AP RACING 製ブレーキフルード、もしくはグリコール・エーテル系の高性能フルード、DOT3/DOT4/ DOT5.1 または FMVSS 規格の条件を満たしたものをお使い下さい。

※シリコン系ブレーキフルードは絶対に使用しないで下さい。

- 11) ピストンシールを溝へ入れて下さい。この際に、シールに捻じれやヨレがないように、十分注意して下さい。
ダストブーツはピストンエンドの溝に合わせて、あらかじめピストンに組み付けておいて下さい。
(ピストンの摺動面には、組付け前にきれいなフルードを塗布して下さい)
写真 11 のように、ピストンをキャリパーに組付けて下さい。この作業は、手の軽い力で行えます。もし入らない場合は、ピストンが真っ直ぐに入っていないか、何か問題がありますので、検査をご依頼下さい。

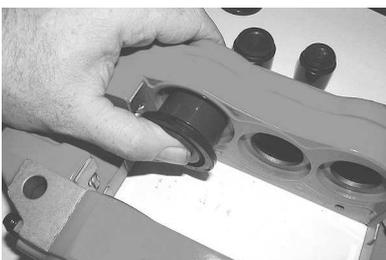


写真 11

12) ダストブーツを指で押して、キャリパーの正しい位置までセットして下さい。写真 12～13 のように、平らなブロック等を使うと、位置出しがやり易くなります。



写真 12



写真 13

13) 写真 14 のように、ダストブーツはキャリパーの面と同じ高さになるようにして下さい。残りのピストンおよびダストブーツも同じ要領で作業を繰り返して下さい。

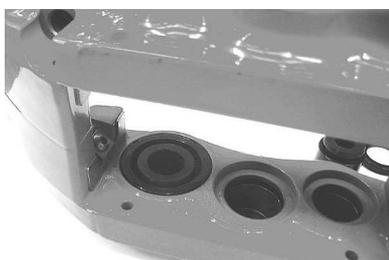


写真 14

また、ブリード・ブリードリング・ブリードダストキャップがシールキットに含まれている製品は、同時に交換作業を行って下さい。

【車両に取付ける際の注意事項】

オーバーホールしたキャリパーを車両に取付けた際は、必ず圧力検査を行って下さい。

検査方法は、エンジンを掛けた状態でブレーキペダルを 60 秒間一定の圧力でホールドし、「ペダルが奥に入らない」ことを確認して下さい。「ペダルが奥に入る」場合は、ブレーキシステムにフルード漏れが発生している可能性があります。

フィッティング等の継ぎ目や、キャリパー等、フルード漏れが疑わしい箇所を全て検査して下さい。もし、フルード漏れの原因が特定できない場合は、絶対に走行をしないで下さい。

【その他注意事項】

キャリパーのシール交換以外のオーバーホールは、AP RACING 社で実施される事を推奨致します。

作業ご依頼の際は、下記までお問合せ下さい。

【メンテナンスやオーバーホールなど、本製品に関するお問合せは下記まで】

ニコル・マーケティング株式会社 レースパーツ課

〒212-0005 神奈川県川崎市幸区戸手 2-5-7 TEL:044-511-3322